

## 第4章 転入者による生活様式の混在とその課題



## 4-1 はじめに

「居住地の変更を伴う移動」が行われ集落の存続に影響を与えるほど人口増加する場合の多くは、世帯数も顕著に増加する。この場合、近代的生活様式である転入者が流入することで集落における生活様式が混在化すると考えられる。

本章では実際に人口増加に転じ集落が存続した事例を取り上げ、伝統的生活様式と近代的生活様式の混在の状態を明らかにする。これを受けて集落の存続後の集落環境の利用管理に関する課題を明確化する。

### (1) 本章の対象地

本章の対象地として取り上げた小宝島は鹿児島県十島村に属し、鹿児島市の南南西約 290km、北緯 29 度 13 分、東経 129 度 19 分に位置する。面積 1.16 km<sup>2</sup>・人口 43 人<sup>1)</sup>と極めて小規模な離島であるが、昭和 63 年に 9 年ぶりに小学校が再開され、平成 2 年には日本の有人離島の中で最後に接岸可能な港が開港されている。図 4-2 から学校の再開を皮切りに公共施設が整備されていき、それに伴って島外から人口が流入してきていることが読み取れる。小宝島はこのように人口減少を食い止めた数少ない離島であり、本章の対象地として選定した。

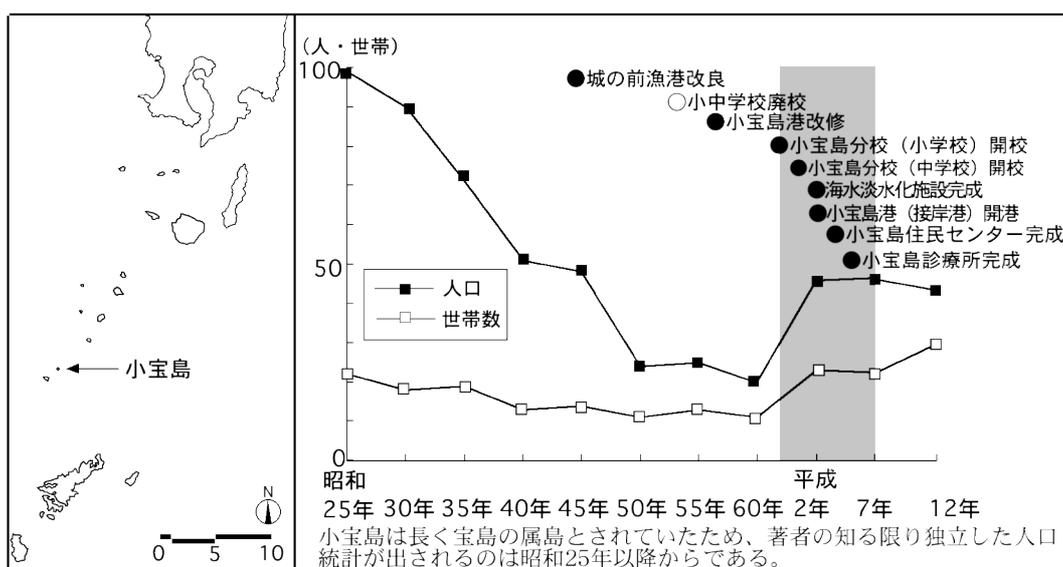


図 4-1 小宝島位置図

図 4-2 人口・世帯数の推移と施設整備

## (2) 本章の目的

自然の恩恵を受け自給自足的に生活を送っている在来の島民の伝統的生活様式と、近代的な生活基盤や利便性に支えられた生活体験を有する、島外からの転入者にとっての近代的な生活様式はどのように混在しているのだろうか。

本章は人口増加後の小宝島島民の生活の実態を把握し、島民の生活環境評価から地域内の諸問題を総合的・構造的に把握するとともに、島民の生活意識の差異を把握することから、生活様式の混在の実態を明らかにすることを目的とする。これを踏まえて集落の存続後の集落環境の利用管理に関する課題を明確化する。

## (3) 分析の方法

本章は以下の主要検討事項から構成される。

### 1) 生活行為の実態の把握

物質的生活を豊かにする物と島民との関係性について生活行為に焦点をあて<sup>2)</sup>、島における物質の循環・フローから生活行為を明らかにする。また、島における空間の利用状況から生活行為を明らかにする。

### 2) 生活意識の把握

生活意識を把握するため生活環境指標に対する満足度評価調査を行うとともに、評価理由の分類をおこない、生活意識の全体的な傾向を把握する。また多変量解析による各島民評価の類型から、評価傾向を把握する。

### 3) 生活様式の混在の実態

以上から人口増加後の伝統的生活様式と近代的な生活様式の混在の実態を明らかにし、転入者の生活様式の重要性を抽出する。

## (4) 島民のプロフィール

本章では、調査（1995年9月と1996年7月）の際に島に滞在していた島民51名を対象に調査を行った。そのプロフィールを表4-3に示す。

表 4-3 島民のプロフィール

名前	年代	居住年数	性別	居住経緯	職業など	畑・船の所有	物質の循環・フロー	行動範囲	生活環境評価
no.1	90代	66	女	流入♥	-	○-	○	○	-
no.2	70代	75	女	定住	-	○-	○	○	-
no.3	70代	19	男	Uターン	-	○-	○	○	-
no.4*	70代	7	女	Uターン	-	○-	○	○	-
no.5*	70代	7	男	Uターン	-	○-	○	○	-
no.6	70代	70?	男	定住	-	○-	○	○	○
no.7	70代	70?	女	定住	-	○-	○	○	-
no.8	70代	70?	男	定住	-	○-	○	○	-
no.9	60代	68	男	定住	公務員	○-	○	○	-
no.10	60代	66	女	定住	-	○-	○	○	○
no.11	60代	63	女	定住	-	○-	○	○	○
no.12	60代	62	女	定住	-	○-	○	○	○
no.13*	50代	8	男	流入▼	教員	○-	○	○	-
no.14*	50代	0	男	流入▼	教員	--	-	-	○
no.15*	50代	1	男	流入▼	教員	--	○	○	○
no.16*	50代	3	男	流入▼	建設業	--	○	○	-
no.17	50代	3	男	流入▼	建設業	--	○	○	○
no.18	50代	23	男	流入★	発電所	○-	○	○	○
no.19*	50代	1	男	流入▼	建設業	--	○	○	-
no.20*	50代	5	女	流入▼	建設業	--	○	○	○
no.21*	40代	3	女	流入▼	-	--	○	○	-
no.22*	40代	3	男	流入▼	建設業	--	○	○	-
no.23*	40代	8	女	流入▼	民宿業	--	○	○	○
no.24*	40代	8	男	Uターン	発電所	○○	○	○	○
no.25*	40代	6	男	Uターン	発電所	--	○	○	○
no.26*	40代	1	男	流入▼	建設業	--	○	○	-
no.27	30代	14	男	Uターン	漁師	-○	○	○	-
no.28*	30代	8	女	Uターン	給食婦	○-	○	○	-
no.29*	30代	0	女	Uターン	民宿業	○-	-	-	○
no.30	30代	14	女	流入♥	民宿業	--	○	○	○
no.31*	30代	6	女	流入♥	-	--	○	○	○
no.32*	30代	0	男	流入▼	教員	--	-	-	○
no.33	30代	10	男	Uターン	発電所	○-	○	○	○
no.34*	30代	3	女	流入▼	看護婦	--	○	○	○
no.35*	20代	1	男	流入▼	教員	--	○	○	-
no.36*	20代	1	男	流入▼	建設業	--	○	○	-
no.37*	20代	1	女	流入▼	-	--	○	○	-
no.38*	20代	2	女	流入▼	教員	--	○	○	-
no.39*	20代	1	男	Uターン	-	○-	○	○	○
no.40*	20代	0	女	流入▼	教員	--	-	-	○
no.41	10代	13	男	定住	中学生	--	○	○	○
no.42	10代	12	女	定住	中学生	--	○	○	○
no.43*	10代	8	男	流入♥	中学生	--	○	○	-
no.44*	10代	5	女	流入♥	小学生	--	○	○	○
no.45*	10代	8	女	流入♥	小学生	--	○	○	○
no.46*	10代	8	男	流入♥	小学生	--	○	○	-
no.47*	0代	8	女	定住	小学生	--	○	○	○
no.48*	0代	7	女	定住	小学生	--	○	○	-
no.49*	0代	5	男	定住	-	--	○	-	-
no.50*	0代	2	男	定住	-	--	○	-	-
no.51*	0代	2	男	定住	-	--	○	-	-

\*：学校再開（昭和63年）以降に小宝島に住むようになった人  
▼：職業による ♥：配偶者・親族の関係 ★：自由意志・その他  
畑・船の所有：左が畑、右が船。○が所有 調査：○が有効回答

## 4-2 物質の循環・フローから見る生活行為

島民の生活行為を物質の循環・フローから把握するために、1995年9月26日27日に全21世帯に対して前日の全食事・食材の入手方法・ゴミの種類・ゴミの処理方法のヒアリング調査を行った。(有効回答数全21世帯100%)

### (1) 類型化

食材入手方法を3つに分類する。

- ①土地依存：海・畑・庭・鶏舎などの島の土地から
- ②集落依存：もらい物・島で購入など島の人から
- ③都市依存：鹿児島・個人購入など島外から

各々の合計頻度(使用された食材の種類)をすべての食材料の種類で割った値を各世帯の土地依存度、集落依存度、都市依存度とする。各世帯の依存度をグラフ化したのが図4-4である。このグラフにおける4つのまとまりをA~Dグループとし、グループ毎に食材の入手先とそのゴミの処理方法、それらに関わる物の頻度を図形化したものが図4-5である。この図に基づき考察を行う。

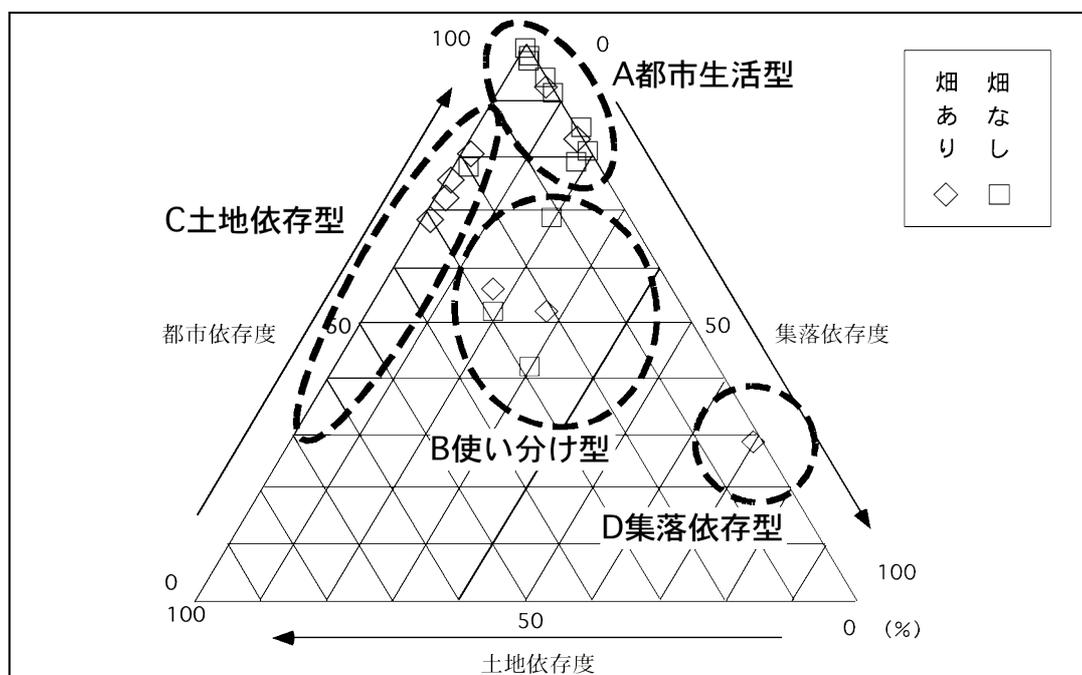


図4-4 食材入手による世帯の類型化

## (2) 生活スタイルの考察

A [都市生活型]：鹿児島からの食材入手がほとんどを占める。そのゴミは 90%以上がゴミ捨て場に捨てられ蓄積していく。10 世帯 (47%) が物品を都市に依存し、それを消費する都市型の生活を送っていることは小さな島の生態系に少なからず影響を与えている。

B [使い分け型]：鹿児島からの食材入手がほとんどを占めるが、島内の生産物や島民からのもらい物など入手先が多様である。島外から入手されたものによるゴミの 7 割はゴミ捨て場に蓄積される。しかし、島内で生産されたものの 7 割は、リサイクルさせている。都市に依存するものと島内で入手するものと使い分けを行っている。

C [土地依存型]：鹿児島から食材入手が最も多いが、そのゴミの 6 割をリサイクルさせている。島内の生産物も 8 割をリサイクルさせている。自給的な生活が基本にあるが島外に依存する割合が次第に増えてきたものと考えられる。

D [集落依存型]：調査日はもらい物と島外購入のもので食事をすませている。ゴミは基本的にはリサイクルさせている。昔ながらの共同体に依存することで一日を生活できることもあるという側面を表しているといえる。

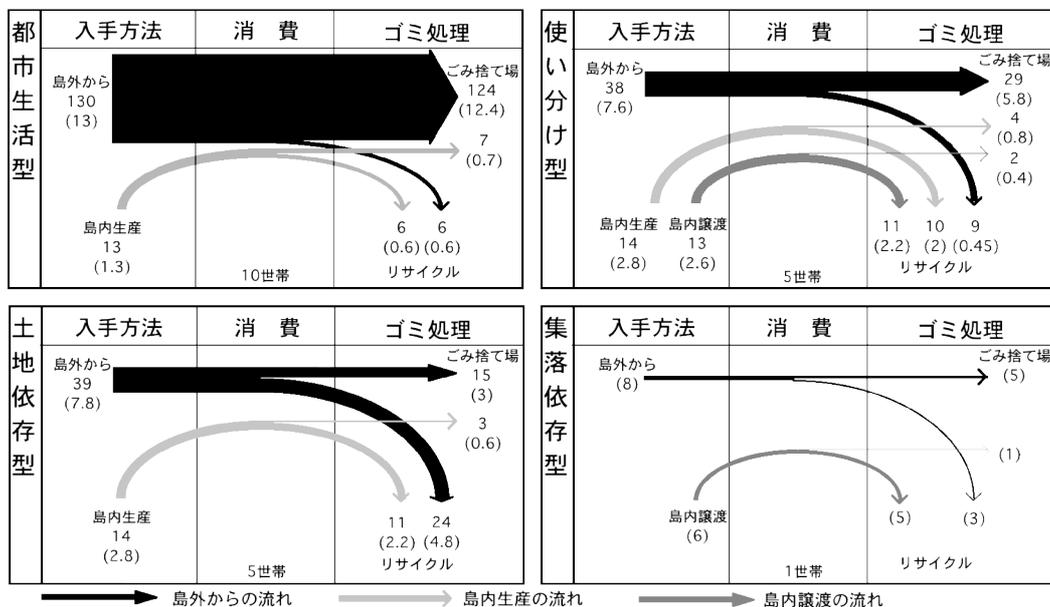


図 4-5 類型毎の食材入手とゴミ処理

### 4-3 行動範囲から見る生活行為

日常の島民の行動を知るために、調査対象日を「村の特別な行事がない平日、かつ定期船の来ない日」と定め、1995年9月25日(月)[晴れ]に設定した。調査は26日27日に行い、その日一日の行動内容、その場所・移動経路、行動時間について島民一人一人を直接訪ねて回答を得た。当日島に滞在した未就学児童3人を除く45人に対して調査を行い、42人(回答率93%)から有効回答を得られた。

#### (1) 行動パターンの分析

最も時間を費やしている場所が〈海・海岸〉〈集落内〉〈内地〉の3つに分けた領域(図4-6)のどこに入るかを分析すると、職業・生業によって7つの行動パターンに分類することができ(図4-7)、比較検討した結果、以下のことが分かった。(表4-8)

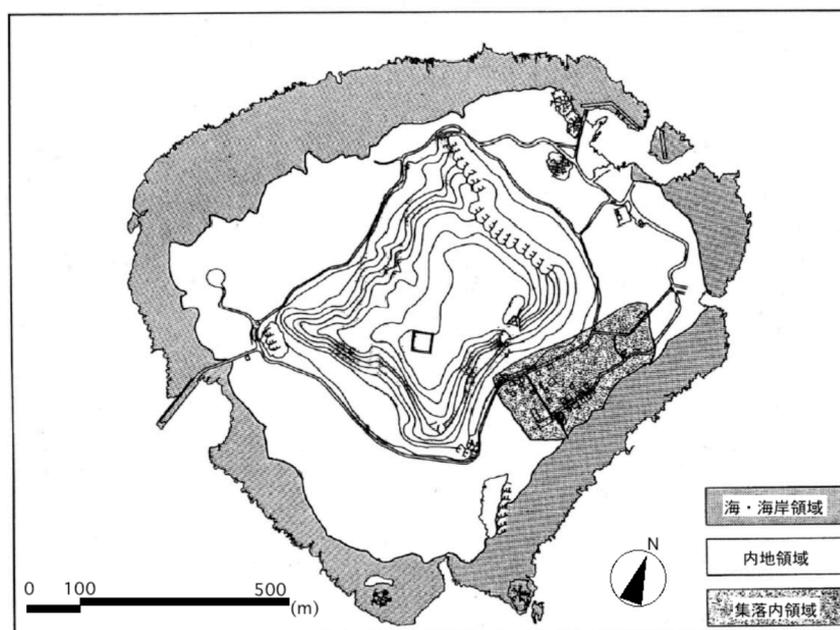


図4-6 3つの領域

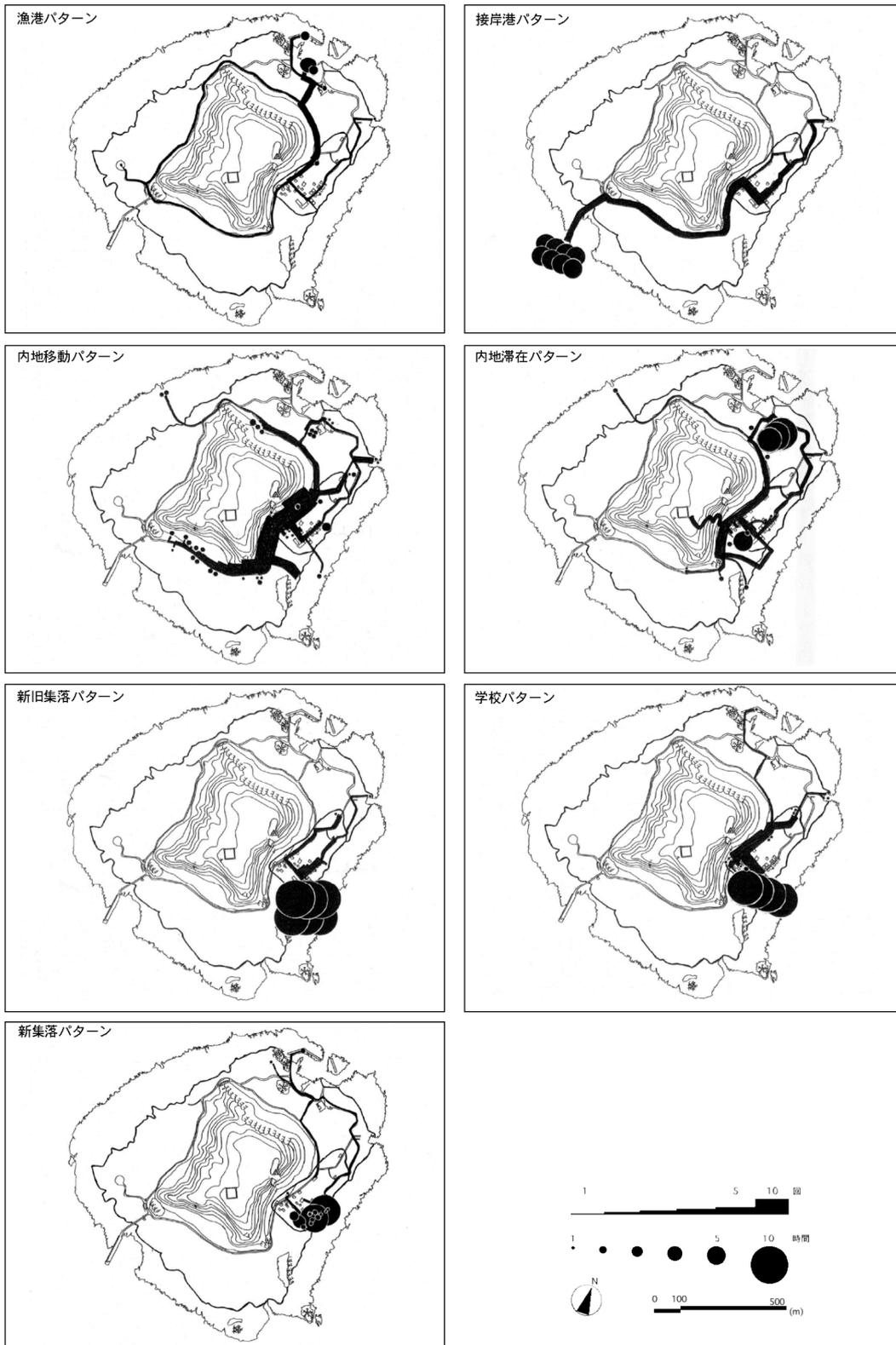


図 4-7 行動パターン毎の行動

①〈海・海岸〉や〈内地〉で多く時間を費やしているパターンは、集落内で行動が少ない。旧集落側に住宅のある人たちの行動は集落内では特に少ない。逆に〈集落内〉で多く時間を費やしているパターンは新集落側に多く住み、ほとんど集落内のみで行動している。つまり、旧集落側に住む人と新集落側に住む人との行動がはっきりと異なっていることが分かった。<sup>3)</sup>

②新集落側での行動がほとんど見られなかったのは、漁港・接岸港・内地移動のパターンである。逆に、旧集落側での行動がほとんど見られなかったのは学校・新集落のパターンである。

③〈内地〉で多く時間をついやしている内地移動・内地滞在のパターンは1日で〈海・海岸〉〈内地〉〈集落内〉をすべて動き回っている。また、集落内の共同作業はこの二つのパターンの人々によって行われている。この二つの違いは、内地移動パターンは新集落側での行動がほとんど見受けられないが、内地滞在パターンは比較的多いことである。

④学校・接岸港パターンは、行動領域は異なるが基本的には、自宅と仕事場の往復だけであるといつてよい。

⑤新旧集落パターンは新集落と旧集落を行き来しているが、〈海・海岸〉〈内地〉の行動がほとんど見られない。

表 4-8 7つの行動パターンと主な行動領域の関係

主たる行動領域	行動パターン	海・海岸域		内地域			集落内域						居住域			
		海・海岸	接岸港 工事	畑	発電所	温泉	旧集落側			新集落側			旧集落側	新集落側		
							民宿	住宅	その他	学校	診療所	住宅			その他	
海・海岸域	漁港	●●				○	○								2人	
	接岸港		●●●●			○○			○							4人
内地域	内地移動	◎◎		●●●●		○○			□□□□				◎		8人	
	内地滞在	○		●●●○		○			□●◎◎						3人	2人
集落内域	新旧集落	○○		◎◎○	●●●	○			○○○○			●●●●			8人	
	学校					○		○			●●●●		○		1人	5人
	旧集落						●●				○○○	●○	○○○○	○○○●	1人	5人

●：生活を支える主たる行動 ◎：生活を支える副行動 ○：余暇的な行動 □：共同作業

## 4-4 満足度評価・重要度評価

1996年7月24・25・26・27日に小宝島の生活環境について4分野31項目の質問項目と総合評価としての3項目の全34項目を設定<sup>4)</sup>し、それぞれ「大変満足」から「大変不満」までの5段階評価を行い、その理由のコメントを記録した。また、重要度評価として4分野31項目の中からもっと「良くなればと思う」項目を5項目以内で選定させた(表4-9)。島に滞在した31人中25人から回答を得た(回答率80.6%)。

表4-9 満足度・重要度・コメント数・相関係数と主成分ベクトル値

分野	質問項目	満足度		コメント数 (人)	良くなれば と思う 項目 (回)	第一 主成分	第二 主成分	第三 主成分	第四 主成分	
		項目別 満足度 得点*	平均満 足度得 点							
利便性	水利用・上水整備	-37		20	17	-0.08	-0.14	-0.09	-0.02	
	行政サービス	-17		11	2	-0.12	-0.31	-0.15	0.09	
	食料・日用品の調達	-16		18	5	-0.20	-0.21	-0.03	0.04	
	島外への交通	-14		19	17	-0.23	0.03	0.15	-0.19	
	山・陸の生産性	-11		16	0	0.06	-0.26	-0.37	-0.01	
	医療施設の利便性	-9		17	8	-0.14	-0.30	-0.16	-0.17	
	教育環境の善さ子供の遊び場	-9		19	7	-0.09	0.37	-0.03	0.25	
	島内道路の整備の良さ	-5		15	1	-0.09	0.24	-0.19	-0.02	
	労働条件	3		16	2	-0.17	0.02	-0.25	0.07	
	海の生産性	12	-9.3	13	2	-0.10	-0.11	-0.16	0.06	
安全性	水害・台風・地震などの自然災害の安全性	-26		18	8	-0.02	-0.18	0.14	0.30	
	獣害(ハブ対策)の安全性	-8		11	1	-0.00	-0.34	-0.02	0.20	
	火災などの人的災害安全性	-8		14	1	-0.08	-0.05	-0.16	-0.10	
	集落内交通の安全性	-2		16	1	-0.18	0.28	-0.23	0.07	
	治安などの社会的安全性	30	-2.8	15	1	-0.24	0.15	0.05	-0.09	
快適性	娯楽性	-13		20	5	-0.24	-0.05	0.10	0.19	
	他地域との交流	-10		24	6	-0.15	0.09	-0.13	-0.16	
	島の衛生状態	-8		19	1	-0.19	-0.08	-0.27	0.28	
	気候の良さ	-5		15	1	-0.09	-0.28	0.11	-0.21	
	生活の充実度	3		12	0	-0.23	-0.03	-0.12	0.15	
	地域としての独自性(小宝島らしさ)	3		14	1	-0.19	0.10	0.07	-0.15	
	収入の安定性	4		7	4	-0.15	0.20	-0.18	-0.02	
	自然環境の豊かさ	10	-1.25	14	1	-0.16	-0.01	-0.06	0.25	
近隣性	年齢層・男女比などの人口構成のバランス	-14		19	3	-0.08	0.07	-0.40	-0.14	
	慣習・言い伝えの継承	-8		17	2	0.17	0.04	-0.34	-0.20	
	住民の気質	-5		15	4	-0.19	-0.01	0.02	-0.29	
	教育・文化活動	-2		12	1	0.16	-0.14	-0.16	-0.27	
	祭りや催し物	4		17	7	-0.13	-0.00	0.10	-0.35	
	近所づきあい	11		11	0	-0.23	0.01	0.17	-0.21	
	家族生活の充実度	15		11	0	-0.20	-0.18	0.14	-0.04	
	共同作業	16	2.125	15	0	-0.23	0.04	-0.02	-0.14	
総合	島の住み心地	18		3	-	-0.28	-0.05	0.13	0.06	
	住み続けたいか	0		10	-	-0.25	-0.14	0.12	0.05	
	島の将来性	-22	-1.33	14	-	-0.23	-0.04	0.03	0.08	
						主成分の固有値	8.17	3.89	3.01	2.81
						主成分の累積寄与率(%)	24.0	35.5	44.3	52.6

\* 満足度得点は「大変不満:-2 まあ不満:-1 どちらでもない:0 まあ満足:+1 大変満足:+2」とし、項目毎に人数を掛け合わせたものである。

## (1) 満足度評価・重要度評価の傾向

「治安などの社会的安全性」が大変満足・まあ満足を合わせて 18 人と満足度が最も高い。その他、「海の生産性」「自然環境の豊かさ」「家族生活の充実度」「近所づきあい」「共同作業」などの自然環境や人間関係についての項目が比較的満足度が高い。また総合評価では、「住み心地」の満足度が比較的高いと言える。

逆に、「水利用・上水整備」が大変不満が 17 人を占め、満足度が最も低い。その他、「食料・日用品の調達」「島外への交通」「行政サービス」「教育環境の善良さ」「自然災害の安全性」「娯楽性」「他地域との交流」「人口構成のバランス」などの項目が比較的満足度が低い。この中に利便性に関する項目が 4 項目と多く、不満が集中している。また、総合評価では「島の将来性」が、まあ不満・大変不満を合わせて 16 人と多く、将来性に強い危機感を感じていることがわかる。

「良くなればと思う」項目では、「水利用・上水整備」「島外への交通」が 17 得点と圧倒的に関心が強い。これら以外の利便性の項目も高い得点を上げている。また、「娯楽性」「他地域との交流」「祭や催し物」などのイベント的な項目の得点も比較的高くなっていることも特徴的である。

各項目におけるコメント数からも利便性やイベント的な項目への関心の高さが伺えるが、「人口構成のバランス」や「島の衛生状態」などは、重要度評価での得点が低い項目ではあるが島民の関心の高いものであることがわかる。

## 4-5 主成分分析と島民生活の類型化

### (1) 満足度評価の主成分分析

次に質問項目全 34 項目に対する満足度評価の主成分分析を行った。分析結果は、固有値（累積寄与率）が第一主成分 8.12 (24.0%)、第二主成分 3.89 (35.5%)、第三主成分 3.01 (44.3%)、第四主成分 2.81 (52.6%) であった。

累積寄与率が 50%を超える第四主成分までで解釈を行い（図 4-9）、第一主成分は、「総合的満足-総合的不満」を示す軸、第二主成分は「島内の利便性指向-島外への利便性指向」の対比を示す軸、第三主成分は「個人的問題指向-集団的問題指向」の対比の軸、第四主成分は「自然環境指向-島民活動指向」の対比の軸と解釈した。

### (2) 島民の満足度評価の類型化

以上より得られた 4 軸で構成される意味空間上に島民ひとりひとりの生活環境への評価が位置していると考え、島民の評価を、ワード法によるクラスター分析を行い、図 4-10 のように 7 つの評価グループに類型化した。島民それぞれの属性をクラスター毎に表した表 4-12 から類型ごとの特徴を述べると共に、各質問項目の満足度の理由をクラスター毎に集計し、それぞれのコメントの共通点を抽出し特徴を述べる（表 4-13）。

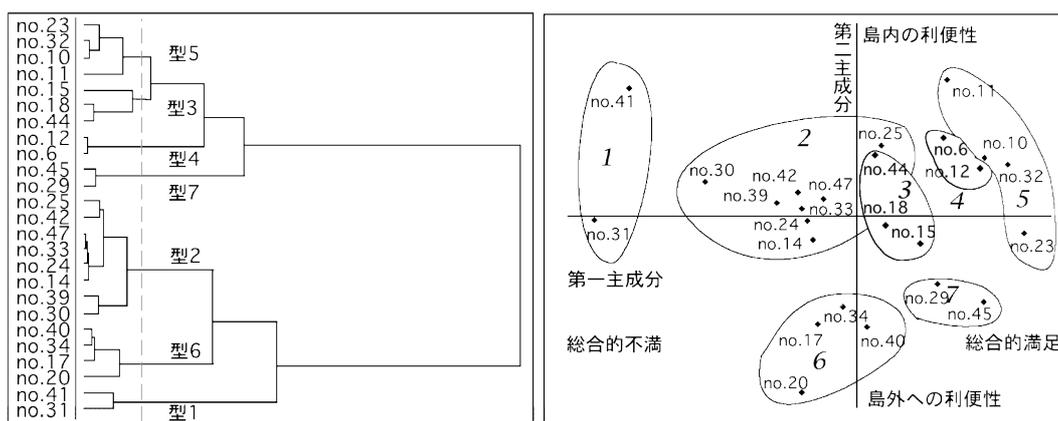


図 4-10 クラスター樹形図

図 4-11-1 島民評価の散布図（Ⅰ軸×Ⅱ軸）

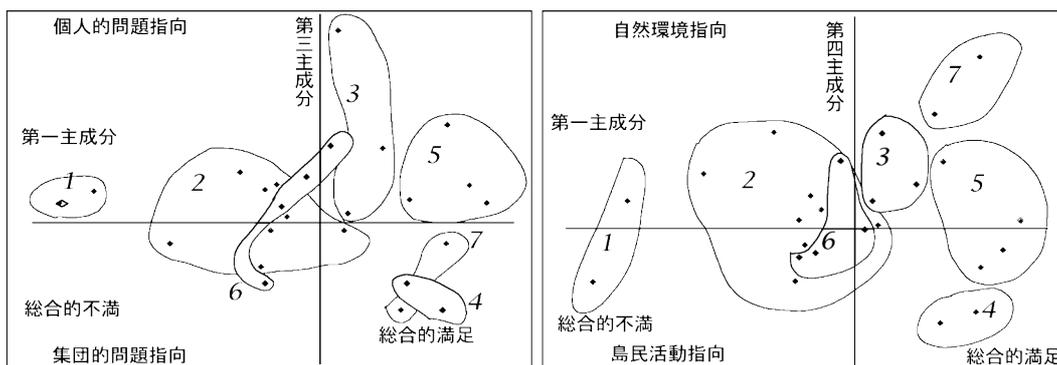


図 4-11-2 島民評価の散布図 (I 軸×III軸)      図 4-11-3 島民評価の散布図 (I 軸×IV軸)

表 4-12 クラスタ分析による評価グループ毎の属性

名前	指向傾向	年齢	性別	居住歴
1 no.41 no.31		10代以下	男	定住
		30代	女	流入♥
2 no.25 no.47 no.14 no.24 no.33 no.42 no.39 no.30	やや不満	40代	男	U/M
		10代以下	女	定住
		50代	男	流入▼
		40代	男	流入♥
		30代	男	U/M
		10代以下	女	定住
		20代	男	U/M
		30代	女	流入♥
3 no.15 no.18 no.44	個人問題・島民活動指向 やや満足	50代	男	流入▼
		50代	男	流入★
		10代	女	流入♥
4 no.12 no.6	集団問題・自然環境 島内への利便性	60代	女	定住
		70代	男	定住
5 no.23 no.32 no.10 no.11	総合的満足 個人問題指向	40代	女	流入▼
		30代	男	流入▼
		60代	女	定住
		60代	女	定住
6 no.40 no.34 no.17 no.20	島外への利便性	20代	女	流入▼
		60代	女	流入▼
		50代	男	流入▼
		50代	女	流入▼
7 no.45 no.29	総合的満足・島外利便性 島民活動・集団的問題	10代以下	女	定住
		30代	女	U/M

▼：職業による    ♥：配偶者・親族の関係    ★：自由意志・その他

表 4-13 評価グループ毎のコメント集計

質問項目	コメント
1 島外への交通	「時間がかかりすぎる。急いで行きたいのに行けない。船の中で楽しむところがない。」 「台風などで延期になる」
教育環境の善さ 子どもの遊び場	「目に入ってくるものが同じ。刺激がない。危険性を伴う。自然だけじゃダメなのでは？」 「何もない。暇を潰せるところがない。」
島の衛生状態	「猫の糞・ゴミ・生ゴミ」 「最悪」
地域としての独自性	「小宝島は一つの国。島の考え方が定着している。長くいる人、力のある人が正しい。」 「人の口が悪い。文句が多い。」
労働条件	「いざというとき働く場所がない。」 「もう少し働く場所がほしい。」
2 労働条件	「職種が限定されしまう。」 「仕事があるだけでも良い。」 「島の仕事が多すぎて暇がない。」
山・陸の生産性	「土地柄・地質や広さの面で制約されるので仕方がない。」 「年寄りも良く作っている。土地柄には良く取れている。」 「季節に合わせて色々なものが作れる。」 「工夫は色々している。土の質が悪い。水が少ない。島が小さい。逆転の発想が必要。」 「サンゴ礁だから生産性は低い。」 「母さんが色々なものを作る。」
海の生産性	「夜光貝・海老などが捕れるが年々密漁などで少なくなってきている。パトロールなどもしているがそれでも密漁は防げない。」 「漁港施設がない。島が小さい。逆転の発想で伊勢エビや夜光貝の養殖が出来れば・・・」
娯楽性	「全くない。テレビだけ。」 「毎日同じだから。」 「みんな忙しいから特別必要ではない。」 「温泉が唯一の娯楽」 「特に（島での）趣味がない。」 「魚が捕れる。ここにあるものは満足だが・・・」
他地域との交流	「イベント（マリンフェスタのような）の時などに限定されてしまう。」 「みんなが他地域に行くとき誰か船のロープを取るんだ？一人二人なら何とかなる。」 「全く交流がない。」 「イベントがあると友達が出来るとしま（船）は交流の場。」 「イベントがあればいろんな人に会える。」 「無いけどあまり気にしてない。たまに島外へ行くから楽しみ。」 「宝島との交流が案外ある。」
3 食料・日用品の調達	「船が順調なら満足」 「システムがわかると面白い。一種の通信販売。そんなに困ることはない。」
島外への交通	「毎日船に来られても困る。」 「島の外に出ることがほとんど無いから、あんまり困らない。」
治安などの 社会的安全性	「鍵を閉めない。」 「人を信頼している。」 「人はみんないい人だから満足。」
4 島外への交通	「今で十分」 「前より港がよくなったから。」
医療施設の 便利さ	「診察してくれる人がいるので安心。近くにいればすぐに連絡できる。」 「医者が巡回し、看護婦もいるから。」
島内道路の 整備	「リヤカーを引くのに整備してほしい。」 「もっと広くしたい。すれ違いができるように4Mぐらいにしたい。」
他地域との 交流	「孫のところに行く。」 「親戚・友人との交流は多い。」
5 島の将来性	「小さいところから切り捨てられていく気がする。期待を込めて。」 「今の子ども達がかえって帰ってくれるといいな。」 「子ども達が住み着けばいいが、高校などいって戻りにくい事情がある。」
医療施設の 便利さ	「震つかの医療団が連携をとっておらず、同じ検査を何回もやらされることがある。」 「気軽でよい。」 「よくなった。」 「昔に比べてよくなった。緊急でヘリコプターも来るし、日赤から巡回医が来るので安心。」
教育環境の 善さ 子どもの遊び場	「自然はあるけど危険が多い。思い切った遊びができない。」 「遊びがない。」 「遊びが少ない。校庭が昔に比べて小さくなった。（いろんなものが建った。）」
水利用・上水 整備	「水不足・生活排水の海への垂れ流しが問題。」 「今はいい。」 「何といても不便だ。」
6 行政サービス	「離島だから後回しにされている気がする。」 「人数の多い島から先に。小宝は後回しになる。」 「行政サービスと呼べるようなものは何もない。」
自然環境の 豊かさ	「自然はあるが環境が良いとは言えない。」 「余分なものが無く、ごみごみした感じが無い。」 「自然に囲まれているけど手が増えられていないので豊かな環境ではない。」
島の衛生 状態	「水・下水の問題。家の回りが不衛生でゴミが多い。」 「不衛生であると思うが、本人が良ければいいと思っている。」 「下水施設が整っていない。」 「下水道がないのがダメ。」
生活の充実 度	「ストレス発散の場所がなく、ストレスがたまる。」 「今が精いっぱい充実としている。」 「単身赴任なので、集団生活なのでプライベートな場や時間が無いのが不満。」
7 教育環境の 善さ 子どもの遊び場	「自然の中で遊びを見つけるのはとてもいいことだ。（中3まで木登りをして遊んでいた。）」 「自然がいっぱいある。海がある。竹の山も冬はいっぱいすきが生えて鬼ごっこができる。」
自然環境の 豊かさ	「季節ごとの風景。海のものもある。」

#### 型1 [若者大不満] :

第一主成分の極端な負の位置にあり、総合的に不満である。労働の場が少ないこと、人間関係の厳しさ、狭小さ故の刺激の無さ、船便の不便さ等から不満を感じている。定住者や親族による流入など血縁関係のある比較的若い人々である。

#### 型2 [若者やや不満] :

全体として第一主成分のやや負の位置にある。「山・陸の生産性」へのコメントが多く、農業環境に対する意識が高く、サンゴ礁ゆえの土質の悪さなどの不満感がある。また、「娯楽性」に不満感があり、イベントなどの「他地域との交流」に期待感が集まっている。居住歴が〈Uターン〉や〈血縁などによる流入〉が多いことや〈定住〉でも子供であり居住年数も10年前後であることから学校再開を契機に島に帰ってきた若者とその家族の大抵がこの型に属していると言える。

#### 型3 [流入者満足] :

総合的にやや満足であり、個人問題指向・自然環境指向の傾向がある。理由はともあれ、島に住むことになり島の生活に馴染んでいる人々である。コメントから「食料・日用品の調達」「島外への交通」の項目で、現状に満足し、これ以上の利便性の向上を望んではいない。また、「治安等の社会的安全性」では島民を信頼しきっていることが読みとれる。流入者であることが共通点である。

#### 型4 [老年集団的問題指向] :

総合的に満足であり、島内利便性指向・集団的問題指向・島民活動指向の傾向がある。コメントから「島外への交通」や「医療施設の便利さ」などの利便性が向上したことに満足をしている。〈60・70代〉〈定住〉と島にもとから住んでいた人々である。

#### 型5 [流入者大満足]・[老年個人的問題指向] :

総合的に満足であり、個人的問題指向の傾向がある。コメントから遊び場が少ないなど子供の生育環境に不満をあげている傾向があり、これと関連して「島の将来性」において今の子供がUターンしてくれるようにと期待をかけている。属性は大きく分けて二つに分かれる。一方は居住歴が〈職業による流入〉〈30・40代〉であり、もう一方は〈定住〉〈60代〉である。前者は島の生活環境に非常に上手く馴染んだ流入者であり、後者は型4のタイプから集落共同体的指向が薄れ始めた人々である。

#### 型6 [流入者島外指向] :

第二主成分の負の位置にある。コメントから小さい離島なので「行政サービス」が後回しされていることに不満感がある。また、自然環境に関して「自然はあるが、自然にある程度の手を加えることで環境が良くなる。」という考え方が特徴的である。また、下水道が未整備であることに関する意識が高い。さらに、「生活の充実度」においてストレスやプライベートなどの単語があらわれ、集団生活に対する不満が読みとれる。〈職業による流入〉と職業で島に居るが馴染みきれていない人々が島外への利便性を強く指向していることがわかる。

#### 型7 [若者満足] :

総合的に満足であり、島外への利便性指向・自然環境指向・集団問題指向の傾向が強い。コメントから小宝島の自然環境を大変に気に入っていることが分かる。居住歴が〈定住〉〈Uターン〉であるが、型2よりも島の環境を積極的に評価している。

## 4-6 島民生活の総合化と生活様式の混在の状態

物質の循環・フローから見る生活行為、行動範囲から見る生活行為、満足度評価のクラスター分析の結果を島民毎に表したのが表 4-14 である。この結果から島民の生活を総合化し図 4-15 のようにまとめた。この図から 6 つの生活系を抽出し、伝統的生活様式と近代的生活様式の混在の状態を明らかにした。(図 4-16)

表 4-14 島民のプロフィールと調査結果

名前	年代	居住年	性	居住歴	生活スタイル	行動パターン	評価グループ
no.1	90代	66	女	流入♥	都市生活	内地移動	-
no.2*	70代	6	女	定住	都市生活	内地移動	-
no.3	70代	19	男	し形	都市生活	漁港	-
no.4*	70代	7	女	し形	土地依存	新集落	-
no.5*	70代	7	男	し形	-	-	-
no.6	70代	-	男	定住	-	-	老年集団の問題指向
no.7	70代	-	女	定住	土地依存	内地移動	-
no.8	70代	-	男	定住	-	-	-
no.9*	60代	6	男	定住	都市生活	内地移動	-
no.10	60代	66	女	定住	土地依存	内地移動	老年個人的問題指向
no.11	60代	63	女	定住	集落依存	内地移動	老年個人的問題指向
no.12	60代	62	女	定住	土地依存	内地移動	老年集団の問題指向
no.13*	50代	8	男	流入▼	使い分け	学校	-
no.14*	50代	0	男	流入▼	-	-	若者やや不満
no.15*	50代	1	男	流入▼	都市生活	学校	流入者満足
no.16*	50代	3	男	流入▼	都市生活	学校	-
no.17	50代	3	男	流入▼	都市生活	接岸港	流入者島外指向
no.18	50代	23	男	流入★	使い分け	内地滞在	流入者満足
no.19*	50代	1	男	流入▼	都市生活	接岸港	-
no.20*	50代	5	女	流入▼	都市生活	新集落	流入者島外指向
no.21*	40代	3	女	流入▼	都市生活	新集落	-
no.22*	40代	3	男	流入▼	土地依存	学校	-
no.23*	40代	8	女	流入▼	使い分け	新集落	流入者大満足
no.24*	40代	8	男	し形	使い分け	内地滞在	若者やや不満
no.25*	40代	6	男	し形	都市生活	内地滞在	若者やや不満
no.26*	40代	1	男	流入▼	都市生活	接岸港	-
no.27	30代	14	男	し形	使い分け	漁港	-
no.28*	30代	8	女	し形	使い分け	内地滞在	-
no.29*	30代	0	女	し形	-	-	若者満足
no.30	30代	14	女	流入♥	使い分け	新集落	若者やや不満
no.31*	30代	6	女	流入♥	都市生活	新集落	若者大不満
no.32*	30代	0	男	流入▼	-	-	流入者大満足
no.33	30代	10	男	し形	使い分け	内地滞在	若者やや不満
no.34*	30代	3	女	流入▼	都市生活	新集落	流入者島外指向
no.35*	20代	1	男	流入▼	都市生活	学校	-
no.36*	20代	1	男	流入▼	都市生活	接岸港	-
no.37*	20代	1	女	流入▼	都市生活	新集落	-
no.38*	20代	2	女	流入▼	都市生活	学校	-
no.39*	20代	1	男	し形	土地依存	内地移動	若者やや不満
no.40*	20代	0	女	流入▼	-	-	流入者島外指向
no.41	10代	13	男	定住	使い分け	新旧集落	若者大不満
no.42	10代	12	女	定住	使い分け	新旧集落	若者やや不満
no.43*	10代	8	男	流入♥	使い分け	新旧集落	-
no.44*	10代	5	女	流入♥	土地依存	新旧集落	流入者満足
no.45*	10代	8	女	流入♥	使い分け	新旧集落	若者満足
no.46*	10代	8	男	流入♥	使い分け	新旧集落	-
no.47*	0代	8	女	定住	使い分け	新旧集落	若者やや不満
no.48*	0代	7	女	定住	使い分け	新旧集落	-
no.49*	0代	5	男	定住	使い分け	-	-
no.50*	0代	2	男	定住	都市生活	-	-
no.51*	0代	2	男	定住	都市生活	-	-

\* : 学校再開以降に小宝島に住むようになった人  
▼ : 職業による ♥ : 配偶者・親族の関係 ★ : 自由意志・その他

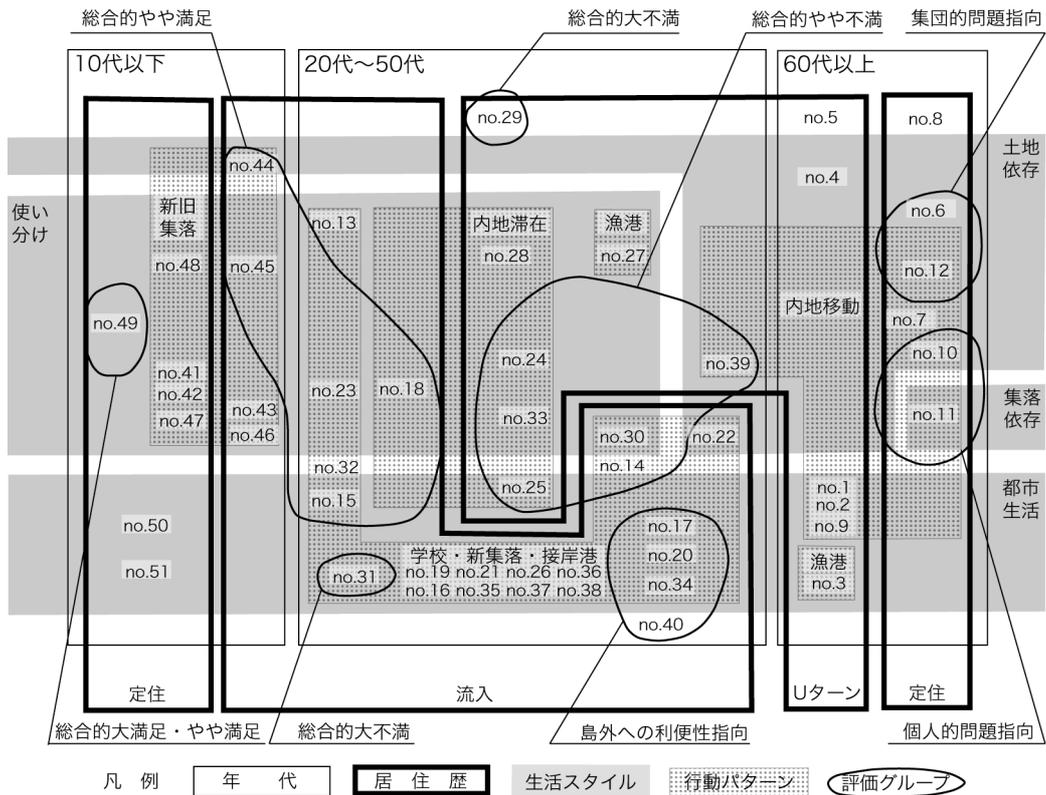


図 4-15 島民生活の総合化

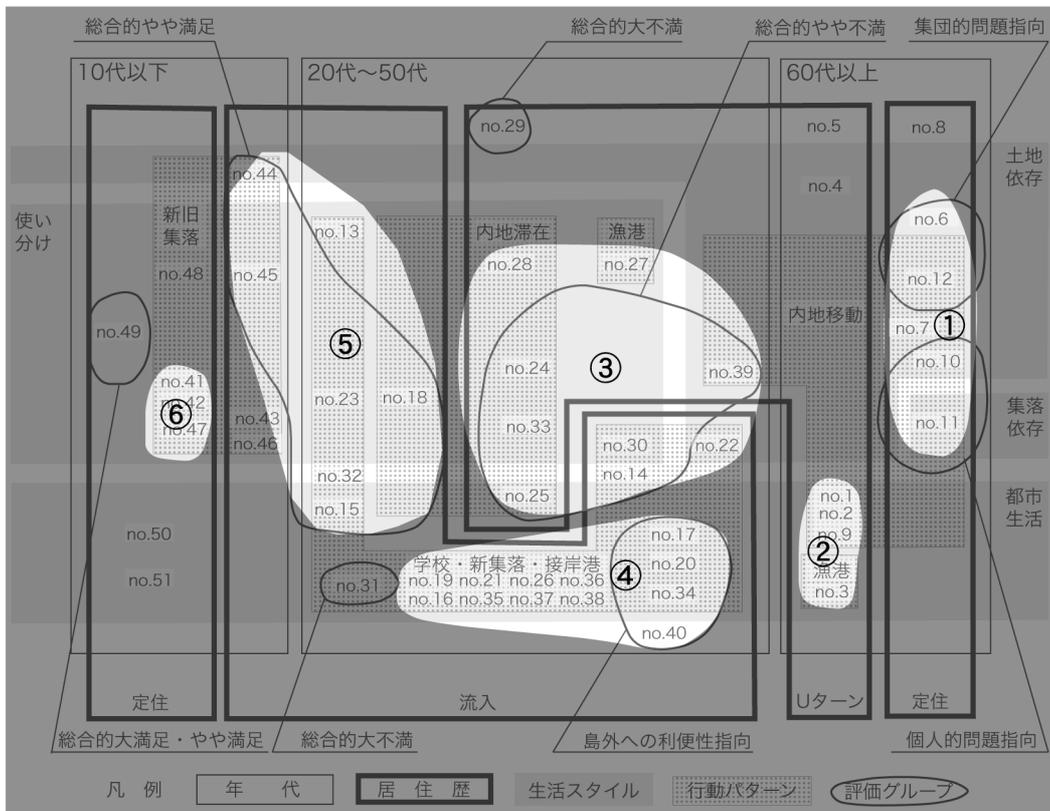


図 4-16 6つの生活系の抽出

以下に、それぞれの生活系の特徴を述べる。

#### 系 1 : 『60代以上—定住—土地依存—農中心』

昔ながらの自給自足的な生活を送る系である。もともと共同体としての意識が強く集団的問題指向であったと考えられるが、利便性の向上や流入者の増加から次第に個人的問題指向へと移行していると考えられる。

#### 系 2 : 『60代以上—Uターン—都市生活—農中心』

島においての行動は農を軸としているが、都市での生活を経験してきた U ターン者の内実は都市型になっている。

#### 系 3 : 『50～20代—Uターン—使い分け—職中心—やや不満』

学校再開を契機に U ターンしてきた若者であり、生活スタイルでも行動パターンでも近代的なものと伝統的なものをうまくバランスをとりながら生活を送っているが、担い手である彼らが生活環境にやや不満をいただいていることは問題である。

#### 系 4 : 『50～20代—流入—都市生活—島外指向』

島民の生活をサポートするために島内在勤である教員や看護婦や土木作業員がこの系統である。不満の傾向はあまり強くはないが島外への利便性を指向する傾向が強い。島に対する関心を強めていく必要がある。

#### 系 5 : 『50代以下—流入—使い分け—やや満足・大満足』

系 4 と比較すると同じ流入者ではあるが、島において生産物を耕作するか島民から貰うなどの〈使い分け〉の生活スタイルであり、そのことにより満足傾向が比較的高くなっていると考えられる。

#### 系 6 : 『10代以下—定住—使い分け—やや不満・大不満』

系 5 に属する流入者の子ども達が満足傾向にあるのに対し、系 6 に属する 10 代の子ども達は不満傾向がみられる。島外生活を経験している子ども達よりも生まれつき島にいる子どもの方が生活環境に対して不満を多く抱いている。

## 4-7 集落環境の利用管理に関する課題の明確化

### (1) 集落環境の利用管理に関する生活系の評価

生活系を U ターンや流入者である転入者と定住者とにわけ、それぞれについて集落環境の利用管理を続けて行くための評価を以下に示す。

#### 1) 転入者が集落環境の利用管理の担い手となるための生活系の抽出

- ① 系 2 や系 4 は〈都市生活〉の生活スタイルであり、集落環境に少なからず影響を与えるので、集落環境の利用管理の担い手として相応しい生活系であるとはいえない。
- ② 近代的な価値観の流入により、系 3 である U ターンの若者やその子どもである系 6 は伝統的生活様式と近代的な生活様式をうまく〈使いわけ〉ている生活スタイルをとっている。しかし、本来、集落環境の利用管理を続けて行く担い手となっていくべきであるが、集落環境への不満意識が高いことが問題である。
- ③ 系 5 のような近代的な生活様式の経験を有しながら、〈使いわけ〉の生活スタイルをとり、生活環境に満足傾向を示す転入者の存在は、転入者が集落環境の利用管理の担い手となっていくのに、相応しい生活系であると考えられる。

#### 2) 集落社会が集落環境の利用管理を継続していくため問題点

- ④ 伝統的生活様式である〈土地依存〉の生活スタイルである系 1 は、近代的な生活様式の流入の影響により、共同意識が薄れている。集落環境の利用管理を継続して行く上で共同意識が薄れて行くことは、問題であると考えられる。

### (2) 集落環境の利用管理に関する課題の明確化

以上から、集落の存続後に集落環境の利用管理を行っていくための課題として、転入者からの課題と定住者からの課題の 2 つにまとめる。

#### ① 転入者からの課題

近代的な生活様式の経験を有している転入者に、系 5 のような生活スタイルを送ってもらうことが集落環境の利用管理の担い手となってもらうためには望ましく、いかに伝統的生活様式を転入者に伝えていくかが課題である。

## ②定住者からの課題

もともとの定住者の共同意識が薄れつつあるので、集落社会における共同意識を再構築していくことが、集落環境の利用管理を行っていくために課題である。

次章では、本章で明らかになった課題に着目し、人口増加し存続し集落社会を再編した集落において、転入者が共用空間の利用管理に与えた影響について着目する。

## 4-8 まとめ

### (1) 結果の要約

本章では、人口増加に転じ集落が存続した鹿児島県鹿児島郡十島村小宝島を事例として取り上げ、伝統的生活様式と近代的生活様式の混在の状態を明らかにした。これを受けて集落の存続後の集落環境の利用管理に関する課題を明確化した。結果は、以下の通りである。

- ①島民の生活行為を物質の循環・フローから把握し、食材入手により世帯を4つの生活スタイルに類型した。
- ②島民の生活行為を行動内容、その場所、移動経路、行動時間から把握し、最も時間を費やしている場所から7つの行動パターンに類型化した。
- ③生活環境に対して意識を把握するため、生活環境指標 34 項目を設定し、「大変満足」から「大変不満」での 5 段階評価をおこなった。これを受け、主成分分析を行い累積寄与率が 50%を超える 4 軸までで解釈をおこない、この 4 軸により島民一人ひとりの評価をクラスター分析し7つの評価グループに類型化した。
- ④以上、①②③の結果と島民の属性から島民生活を体系的に整理し、6つの基本的な生活系を抽出し、伝統的生活様式と近代的生活様式の混在の状態を明らかにした。
- ⑤これらを受け、集落の存続後に集落環境の利用管理を行っていくための課題として以下の2点を明らかにした。
  - ・ 近代的生活様式の経験を有している転入者に伝統的生活様式を伝えていくこと。
  - ・ 定住者の共同意識が薄れつつあるので、集落社会における共同意識を再構築していくこと。

<補注>

- 1)平成 12 年国勢調査をもとに離島毎に集計した日本離島センター（2002）のデータを用いた。
- 2)吉阪（1965）は、生活を大きく4つに分類し、採食・排泄など生理的な生活を第一生活、その第一生活を支える物質と交渉の間に行われる生活を第二生活、遊戯や表現や創造など精神的生活を第三生活、旅行など移動自体が目的になったせいかつを第四生活としている。本章では生活行為に関して上記の第二生活に着目している。
- 3)稲垣（1973）をもとに新旧集落の判別をした。
- 4)鳴海、他（1987）を基に、藍澤（1983）、藤本（1987）を参考にし、離島固有の問題に関しては田辺（1993）をもとに設定した。

<参考引用文献>

- (1)藍澤宏「農村居住者の生活環境評価による地域類型」日本建築学会論文報告集第331号、p84～p93、1983
- (2)稲垣尚友「トカラの地名と民俗 下」,ボン工房,p131、1973
- (3)財団法人日本離島センター「2001 離島統計年報」2002.4
- (4)田辺員人「条件不利地域対策としての離島法」『地域開発』No2、p12～p17、1993
- (5)鳴海邦碩、金益煥「居住歴からみた農村の居住環境評価に関する研究」日本都市計画学会学術論文集、p343～p348、1987
- (6)藤本信義、他「地方都市整備の方向性に関する住民評価に関する研究」日本都市計画学会学術論文集、p391～p398、1987
- (7)山崎義人・後藤春彦・村上佳代「島民生活の体系的把握による小宝島の生活環境に関する研究 ～離島の人口定着と地域維持に関する研究～」日本建築学会計画系論文集第500号、p161～p168、1997.10
- (8)山崎義人「島人の生活（生業）から、島づくりの展望を考える」『若手計画研究者の視点と方法 1999 年度 日本建築学会農村計画委員会春季学術研究会 資料集』日本建築学会農村計画委員会、p10～p17、1999.6
- (9)吉阪隆正『住居学』、相模書房、P262～P274、1965